

シカ角のタモ 釣りのお供に

【南富良野】南富良野高ボランティア同好会が、エゾシカの角を活用し、溪流釣りで魚をすくう道具「タモ」を制作し、道の駅南ふらので販売を始めた。発案者の1年吉田伊織さん(15)は「一つ一つ丁寧に作っているので、釣り好きな人に使ってもらいたい」と話す。

吉田さんは帯広市出身で、小学3年から釣りを始めた。中学3年の時、動画を参考にして初めて自作したタモを愛用している。南富良野高に進学後、「町内にはシカが多く、角の見た目がカッコいい。生かして作りたい」と考えた。

タモの持ち手部分は、エゾシカ肉加工販売を手がける南富フーズ(南富良野)から提供されたシカの角を使い、フレームは軽量のアルミパイプを加工した。

釣り上げた魚を生かしたまま川に戻す「キャッチ・アンド・リリース」を楽しむ吉田さんがこだわったのは魚体を傷つけにくくする

南富良野高・吉田さんら手作り

網はラバー製 魚体傷つけにくい工夫も

ボランティア同好会のメンバーと一緒にタモを作った吉田さん(中央)



こと。網はナイロン製ではなく、ヒレなどに絡まりにくいラバー製にした上で、紫やピンクに染め、釣った魚を写真に収める際に見栄えが良くなる工夫をした。制作には同好会の仲間4人も協力した。角を削って磨き、アルミパイプを曲げ、染料を加熱して網を染めるなど工程を分担し、丁寧に1本ずつ手作業で仕上げた。

町内では溪流釣りが人気で、オシロコマやアメマが狙えるという。8月に

町内では道の駅で開かれた「和まつり」で試験的に販売したところ、9本が完売した。9月25日からは道の駅南ふらので取り扱いが始まった。運営する南富良野町振興公社の小室伸幸総務部長は「しっかりした作り。ぜひ手にとってほしい」と話す。

9600円で、売り上げの一部は町内のイトウ保護団体「ソラプチ・イトウの会」に寄付する。問い合わせは同公社、電話0167・52・2100へ。(川上舞)